

西陣織会館リニューアル記念展

「西陣美と技の伝承」

12月20日まで 3階・西陣織史料室

西陣織会館(京都市上京区)がこのほど大規模なリニューアル工事を完了し新装オープンした。人気の「きものショー」を行なっていた3階を1階から3階に移転拡大した他、同3階にある西陣織史料室も改装された。そのリニューアルを記念して、同史料室では西陣織の名品を集めて展示している。



紅地雪輪青海波に水仙文様唐織能装束 山口安次郎作 平成3年(1991) <江戸時代後期三引くの復元>

念献上品として製織された作品と同じ能装束や、人間国宝の喜多川平朗と喜多川儀二が作りあげた二階織物の几帳、フランス日本大使館の室内装飾に使用された壁張地の軸装、西陣金襴会70周年記念に作られた金襴製貼交屏風、西陣にとつて画期的な技術革新をもたらした木製ジャガード機など多岐に亘り、西陣が誇る技術と美しい西陣織の文化を紹介している。開館時間は10時～18時。会期中無休。入場無料。

オリジナルブランド 二枚看板で堅調 ウライ

ウライの振袖は、4年目となる「ローラ」と、今年からスタートした新ブランド「にこるん Furisodes」のオリジナルの二枚看板ブランドが人気をけん引する形で取り扱い先を増やしている。

ており、振袖全体の売上高も好調に推移している。

また、「にこるん」振袖のコーディネイトに使用した同社のオリジナル振袖用小物が得意先から好評を集めていることから、小物だけを独立させて「うららコレクション」と題し展開している。草履やバッグをはじめ、カラフルな色彩でかわいらしくポップなアイテムが充実しており、追加受注やリピート注文なども可能。今後も継続的な展開を視野に入れているという。



藤田ニコルさんをキャラクターとした「にこるん」

「型紙」を学術資料として共有化へ 10月29日・30日 ワークショップ 立命館大学アート・リサーチセンター

立命館大学アート・リサーチセンター(京都市北区)は、「国際ワークショップ」学術資料としての『型紙』資料の共有化と活用に向けて、10月29日・30日に同センター内で行なう。

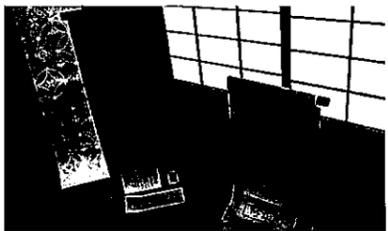
近年、世界各地で染色用の型紙の展覧会や研究会が開催され、「型紙」の学術研究が盛んになりつつある。その一方で、これまでには研究者個人や各所蔵機関が独自に型紙研究を進めてきた経緯があり、手法も確立されてはいなかった。大量に現存する型紙を整理するには、研究者や所蔵機関が連携をとりながら研究を推進する必要がある。その場合、国を超えた連携には、デジタル技術やWEBが欠かせないため、同ワークショップでは、これらを駆使して各機関が連携を図るには何が必要かを探る。

29日には、立命館大学の鈴木桂子教授による「国際的な型紙研究の基盤構築と活用に向けて」と題した開会宣言、三重県立美術館学芸員の「道具」から『資料』へ、これからの型紙研究へ向けると題した研究報告をそれぞれ発表する。また、型紙のデジタルアーカイブ化に向けての取り組みについて、立命館大学・三重県立美術館などのメンバーを中心に議論を重ねる。

唐織帯や「よろけ紬」 着尺など 春物新作を発表

増盛

増盛(京都)はこのほど、同社オリジナル商品として唐織の来春向新作帯の発表を発表した。また、西陣・まこと織物が今年6月末に特許の認定(手織機の箆および箆框の構造)を得た「よろけ紬」着尺も発表。経糸のよろけの糸が透けて見える独特の風合いが人気を集めた。



そのほか、小森織物の錦織をはじめとした袋帯や、色無地などに最適な唐織の太鼓柄の帯、名古屋帯、箔錦、錦、ビーズ入りの帯、振袖用袋帯なども発表した。

「きものday結城」

11月12～13日 結城市北部各所で

晩秋の茨城をきもの姿で彩る「きものday結城」が11月12日・13日、結城市北部市街地で行なわれる。JR結城市駅前・結城市民情報センターではミニライブや、本場結城紬の反物などが当たる「きものday結城 抽選会」、結城紬きものレンタル・着付のほか、人力車乗車会、常光寺で行なわれる「ぶらり結城紬着こち体験」市街地各所で行なわれる「ワークショップ」などが予定されている。

購買客増も売上高減 7ヶ月連続マイナス 全国百貨店9月売上高

日本百貨店協会は、このほどまとめた全国百貨店の9月の売上高は、前年同月比5.0%減(店舗数調整後)7ヶ月連続マイナスの42.3億円余となり7ヶ月連続のマイナスに終わった。調査対象百貨店は81社236店。経済不安などによる先行きの不透明感から、消費者の節約志向が高まっていることに加え、天候不順や休日1日減などによる入店客数への影響が要因。

また、規模別でも全ての店舗規模が前年に届かなかった。商品別では、気温が高めに推移したことか、衣料品は8.9%減と苦戦。一方で、化粧品が6.2%増で内外問わず好調を維持している。

伝統工芸品「弓浜緋」展 大阪と東京で開催

伝統的工芸品の「弓浜緋」の魅力を紹介する展覧会「弓浜緋展」が、大阪と東京の2会場で開催される。大阪は10月29日～11月1日、大阪市北区梅田1-1-3・大塚ビル3階22階にある「鳥取県関西本部交流室」で、東京は12月1～2日にかけて東京都港区新橋1-11-7・新橋センタープレイにある「とっとり・おみやま新橋館2階」で、それぞれ開催される。

弓浜緋は、江戸時代前期から鳥取県西部・弓浜の地で織り継がれてきた織物で、深い藍色の地に美しい白抜き柄の柄のコントラストに特徴がある。期間中は、地元で織り上げた作品の展示や実演体験として機織り、糸紡ぎ、綿の実練りなども行なう。

また、国内市場(シェア97.1%)が4.8%減。インバウンド(シェア2.9%)は購買単価の下落から売上は10.1%減と6ヶ月連続で前年を下回った一方、

美山織 株式会社 丸山 本社 0772-243107 分室 075-841-1478

井登美の 平田組紐 発売元 井登美株式会社 京都市下京区室町通高辻下ル TEL 075-351-8957

宮廷「大礼」文化の世界を紹介 11月13日まで 京セラ美術館

近世京都の宮廷文化展覧会実行委員会は、京都市、京都府神社庁、京都新聞社の後援を得て、「近世京都の宮廷文化」展を11月13日まで、京都市伏見区にある京セラ美術館(京セラ本社ビル1階)で開催している。

京都では、平安建都(794年)以来、宮廷を中心に雅な文化が花開いてきた。その宮廷文化の粋を形を表す最高の晴れ舞台が、代始めの即位式と大嘗祭にほかならない。同展では、小原家文庫(皇學館大学佐川記念神道博物館)をはじめ大切に伝えられてきた大札(即位式・大嘗祭)に関する資料に加え、徳川秀忠の娘で、後水尾天皇に入内した東福門院(徳川和子)ゆかりの品々など約60点を展示している。

入場無料。